

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第23週 (6/4-6/10) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		23週	22週	21週	20週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	6/4-6/10	5/28-6/3	5/21-5/27	5/14-5/20	5/28-6/3
			23週	22週	21週	20週	22週
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	1 0.06	0 0.00	0 0.00	16 0.12
	咽頭結膜熱	○	10 0.56	3 0.17	7 0.39	5 0.28	149 1.11
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		61 3.39	74 4.11	70 3.89	66 3.67	480 3.58
	感染性胃腸炎		116 6.44	147 8.17	153 8.50	157 8.72	708 5.28
	水痘		11 0.61	5 0.28	27 1.50	4 0.22	64 0.48
	手足口病		2 0.11	3 0.17	1 0.06	2 0.11	24 0.18
	伝染性紅斑		1 0.06	1 0.06	0 0.00	2 0.11	31 0.23
	突発性発しん	○	19 1.06	9 0.50	15 0.83	14 0.78	66 0.49
	ヘルパンギーナ		3 0.17	4 0.22	1 0.06	2 0.11	24 0.18
	流行性耳下腺炎		2 0.11	2 0.11	1 0.06	4 0.22	27 0.20
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1 0.04	5 0.18	5 0.18	2 0.07	27 0.13
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		3 0.60	4 0.80	4 0.80	1 0.20	16 0.46
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳代	IGRA検査等	E型肝炎	男性	60歳代	血清IgA抗体の検出
結核	男性	70歳代	IGRA検査等	腸管出血性 大腸菌感染症	女性	70歳代	病原体の検出及び ベロ毒素の確認
結核	男性	80歳代	胸水ADA値の上昇				
結核	男性	80歳代	画像診断	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	40歳代	病原体の検出等	百日咳	女性	40歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	70歳代	IGRA検査	百日咳	女性	60歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	80歳代	病原体遺伝子の検出	-	-	-	-

・第23週は、結核7件(86)、腸管出血性大腸菌感染症1件(3)、E型肝炎1件(4)、百日咳3件(30)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第23週のコメント

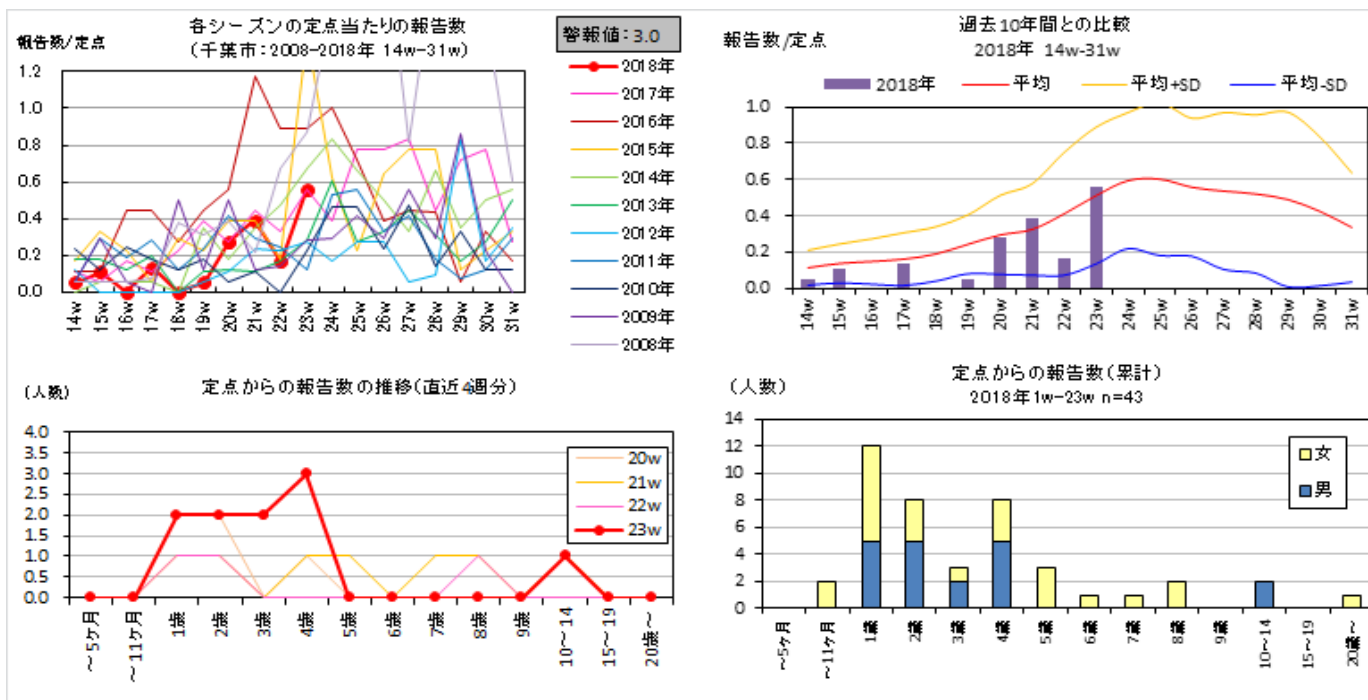
＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.56となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。

＜突発性発しん＞前週より増加し1.06となった。過去10年の同時期と比べると多め。

トピック

＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの第22週は、過去10年の同時期と比べると多い状況となっています。都道府県別では新潟県、鳥取県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第23週は前週より増加し0.56となり、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.67/定点)で最多で、同区の3歳及び4歳で多く発生報告がありました。2018年第1週から第23週までの累積報告数(n=43)によると、性別では男性が44.2%(19名)、女性が55.8%(24名)で、年齢階級別では1歳(27.9%:12名)、2歳及び4歳(共に18.6%:8名)の順で多くなっています。



＜突発性発しん＞

全国レベルの第22週は、過去10年の同時期と比べると少ない状況となっています。都道府県別では島根県、佐賀県及び熊本県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の第23週は前週より増加し1.06となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、稲毛区(2.33/定点)で最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第23週までの累積報告数(n=213)によると、性別では男性が49.8%(106名)、女性が50.2%(107名)で、年齢階級別では1歳(57.7%:123名)、6-11か月(22.5%:48名)、2歳(13.1%:28名)の順で多くなっています。

